

今日のトピック インド株式市場はやや軟調（2019年7月前半） 注目された予算案は市場の期待に届かず下落

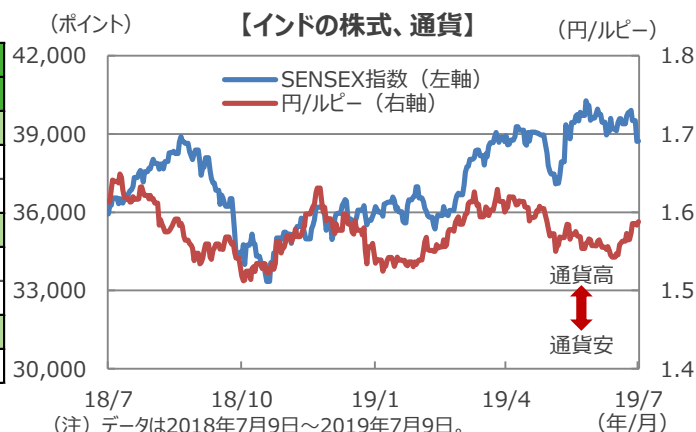
【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	7月9日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.59	1.5	2.0	3.5	▲1.5
ルピー/米ドル (ルピー)	68.55	▲0.6	▲1.3	▲2.7	▲0.2
金利 (%)					
政策金利	5.75	0.00	0.00	▲0.75	▲0.50
10年国債利回り	6.59	▲0.26	▲0.39	▲0.94	▲1.30
株式指数					
SENSEX (ポイント)	38,730	▲2.7	▲2.2	7.0	7.8

(注) データは2019年7月9日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【インドの株式、通貨】



ポイント1 株式市場はやや軟調な展開 予算案発表で材料出尽くし

- インドの主要株式指数のSENSEXは6月に前月比で小幅安となりましたが、7月もやや軟調な展開となっています。6月は米国とインドの貿易摩擦への懸念が嫌気されましたが、ポンペオ米務長官が6月下旬にインドを訪問し、米印間の貿易問題への懸念が後退したことで月末にかけて反発しました。7月に入ると、注目された米中首脳会談での米中協議の再開合意やインド予算案への期待で上昇しましたが、7月5日に発表された予算案は市場の期待に届かず、材料出尽くしで反落しました。その後も、米雇用統計を受けた米利下げ観測の後退でアジア株が下落したこともあり、軟調に推移しています。

ポイント2 予算案は財政再建優先

- インドのシタラムン財務相は7月5日、2019/20年度（2019年4月～2020年3月）の予算案を国会に提出しました。2月の暫定予算案では同年度の財政赤字のGDP比は3.4%でしたが、今回は3.3%に縮小して設定され、予想を上回る景気対策は打ち出されませんでした。モディ政権は2020/21年度の財政赤字のGDP比を3.0%へ縮小する方針であり、財政再建を優先する意思を示しました。

今後の展開 モディ政権が財政再建を重視する姿勢は中長期的にポジティブ

- 追加の景気刺激策への期待が高まっていた株式市場では、予算案が市場の期待に届かなかったことから、利食い売りが先行する展開となりました。しかし、モディ政権の財政再建を重視する姿勢は中長期的にはインドの経済や市場にポジティブと考えられます。高い経済成長、金融緩和、政治の安定、海外投資家の資金流入を背景に、中長期的に株式市場は堅調な展開が期待されます。

ここもチェック! 2019年6月26日 インド株式市場は小反落（2019年6月後半）
2019年6月12日 インド株式市場は高値もみあい（2019年6月前半）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。